

2015年度 自己点検・評価【神学研究科】

C票

<目標、行動計画>策定シート

作成日:2016年 2月19日

責任者	神学研究科委員長	作成部局	神学研究科
-----	----------	------	-------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】						
(タイトル)						
神学における専門的な知識を修得し、思索を深めることのできる人材の育成 [前期課程]						
(狙い内容)						
より高度な専門知識の修得を目指し、幅広くキリスト教に関する知見を具え、かつ思索できる人材を育成する。						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)						
4つの研究分野において開講しているすべての「特殊講義」(前期課程)に「特殊研究」(後期課程)を合併開講することで、講義内容を高度化する。後期課程学生と受講することで、主に、専門的知識の修得を図り、思索を深めるインセンティブを与える。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。						
後期課程学生においては履修可能科目が少なく、限定されている。 前期課程学生においては、研究者養成や、宣教の現場で直ちに活躍しうる力量を備える場合にも、更なる専門的な学識を有することが望まれている。						
3. 達成度評価						
評価指標	合併開講状況 「旧約聖書特殊講義A~D」・「新約聖書特殊講義A~D」・「歴史神学特殊講義A~D」・「キリスト教思想特殊講義A~D」・「実践神学特殊講義A~D」				評価尺度	A:4分野開講 B:3分野開講 C:2分野開講 D:未実施
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
「新約聖書学特殊講義」・「歴史神学特殊講義」のみ合併開講	制度構築に向けて検討開始	制度構築	合併開講実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施

【A票:教育研究目標2】						
(タイトル)						
多様なキリスト教思想の知を身につけた人材の育成 [前期課程]						
(狙い内容)						
世界で展開する様々なキリスト教思想を学び、多元化社会において深い見識を養い、具体的な世界の問題を発見し、キリスト教的な立場から取り組み、解決できる人材を育成する。						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)						
「キリスト教思想特殊講義」において、多彩な講師によってグローバルなキリスト教思想を扱う授業を実施する。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。						
従来、神学研究科では神学全体についてドイツの研究内容に重点をおく傾向がみられる。しかし、フランスのマリオンやナンシー、またイタリアのアガンベンやヴァッティモなどのキリスト教思想など、注目すべきキリスト教思想は多数存在する。よって、世界的な問題の発見、解決する人材を養成すべく、欧米諸国やアジアなどの現代神学、キリスト教思想についての講義を展開する。						
3. 達成度評価						
評価指標	シラバスへの明記状況				評価尺度	A:シラバス作成(確定) B:シラバス作成(原案確定・継続検討実施) C:シラバス記載内容検討 D:未実施
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
未実施	シラバス内容検討・実施	シラバス内容確定(原案)・実施	シラバス作成(確定)	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

修士論文を執筆できる能力の育成 [前期課程]

(狙い内容)

神学における専門研究者の育成とキリスト教会やキリスト教主義学校教育、社会福祉や社会活動などの領域において指導的な役割を果たすことができる、高度な専門的知識を具えた職業人を育成する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

『修士論文優秀賞』を設置する。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

それぞれがゼミ内のみで論文執筆に励んでいるのが現状である。論文執筆に対する更なる意欲の向上をはかるインセンティブの一環として、競争原理を導入する。

3. 達成度評価

評価指標	『修士論文優秀賞』の設置状況	評価尺度	A:『修士論文優秀賞』設置 B:『修士論文優秀賞』原案確定 C:『修士論文優秀賞』原案検討 D:『未実施』
------	----------------	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
未実施	原案検討・作成	原案確定・運用	『修士論文優秀賞』設置	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)

博士論文を執筆できる能力の修得 [後期課程]

(狙い内容)

神学における高度な専門研究者を効果的に育成するべく、学位論文の執筆にむけて指導する。

1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)

年度末等のしかるべき時期に研究発表の場を設ける。

2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。

「研究演習」での論文指導が主たる教育となっている。幅広い知見を具えるべく、研究発表を課し、研究科全体での学生への指導が必要と分析。

3. 達成度評価

評価指標	後期課程の学生による『研究発表会(仮称)』の開催に向けた検討状況	評価尺度	A:開催している B:開催についての原案を研究科委員会にて承認 C:開催についての原案を懇談 D:開催について検討している
------	----------------------------------	------	--

4. 年度毎の目標値

2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
開催について検討	開催についての原案を懇談	開催についての原案を確定。研究科委員会にて承認。	『研究発表会(仮称)』開催	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施	効果の測定と検証の実施